

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(平成24年9月分)

ご協力ありがとうございました。平成24年9月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 162社 回答 154社 回答率 95.1%

調査項目	前 月 比					計	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況		10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況	
売上数量	17社 11.1% (2.0)	29社 19.0% (10.7)	55社 35.9% (30.9)	40社 26.1% (32.9)	12社 7.8% (23.5)	153社	9社 6.0% (6.8)	15社 10.0% (15.0)	45社 30.0% (31.3)	43社 28.7% (25.2)	38社 25.3% (21.8)	150社
売上高	13社 8.4% (2.7)	39社 25.3% (10.0)	48社 31.2% (28.0)	43社 27.9% (34.7)	11社 7.1% (24.7)	154社	3社 2.0% (5.4)	11社 7.3% (10.8)	47社 31.1% (30.4)	43社 28.5% (31.1)	47社 31.1% (22.3)	151社
在庫数量	8社 5.4% (0.7)	21社 14.1% (18.4)	82社 55.0% (54.6)	33社 22.1% (21.3)	5社 3.4% (5.0)	149社	11社 7.5% (5.7)	20社 13.7% (16.4)	69社 47.3% (43.6)	22社 15.1% (18.6)	24社 16.4% (15.7)	146社
販売単価	1社 0.7% (0.7)	4社 2.7% (2.1)	95社 63.8% (64.4)	46社 30.9% (30.8)	3社 2.0% (2.1)	149社	2社 1.4% (0.7)	6社 4.1% (7.0)	41社 28.1% (30.8)	61社 41.8% (42.0)	36社 24.7% (19.6)	146社
収益状況 (粗利)	7社 4.7% (2.7)	26社 17.3% (6.8)	64社 42.7% (38.8)	42社 28.0% (35.4)	11社 7.3% (16.3)	150社	7社 4.7% (3.5)	12社 8.1% (9.7)	46社 30.9% (36.8)	52社 34.9% (30.6)	32社 21.5% (19.4)	149社
稼働率 (生産・加工設備)	5社 4.1% (0.9)	26社 21.1% (5.1)	55社 44.7% (45.3)	31社 25.2% (31.6)	6社 4.9% (17.1)	123社	3社 2.5% (5.2)	9社 7.6% (9.5)	48社 40.3% (42.2)	34社 28.6% (27.6)	25社 21.0% (15.5)	119社
入出庫の トラック台数	4社 2.7% (0.7)	22社 15.1% (7.2)	74社 50.7% (40.6)	38社 26.0% (35.5)	8社 5.5% (15.9)	146社	4社 2.8% (5.1)	9社 6.3% (5.8)	61社 43.0% (46.7)	47社 33.1% (26.3)	21社 14.8% (16.1)	142社
	現在の景況感					141社	3ヶ月後の景況予測					137社
	1社 0.7% (0.0)	7社 5.0% (6.3)	51社 36.2% (37.8)	49社 34.8% (33.6)	33社 23.4% (22.4)		0社 0.0% (1.4)	19社 13.9% (23.2)	84社 61.3% (57.7)	28社 20.4% (14.8)	6社 4.4% (2.8)	
特記事項	今月も各品種の〔特記事項〕が数多く寄せられましたので、別送にてお知らせいたします											

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
 ②()内の数字は前月のパーセントです
 ③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
 特記事項欄に別途記載いたします
 ④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
 事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(9月) 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 価格の下げが止まらない。物件は出て来ているが、安値でしか決まらない。加工賃、運賃は持ち出し状態。
- ② 需要低迷で荷動きが悪い。秋需を期待する時期であるが、望めそうもない様相である。需要喚起起爆剤の必要性を痛感している。更に、モラトリアム法失効期限が迫り、倒産等の懸念も増幅しており、目配りが欠かせない状況になってきた。
- ③ 長く供給過剰の状況が続き、在庫が高水準で推移している。市況も下げ基調で弱含んでいる。早急な需給調整が望まれるが、荷動きが日を追うごとに悪化傾向にあり、市況立て直しには閉塞感がある。その他小零細企業の与信も一段と厳しさを増している。
- ④ 店売り需要が減り、供給過多が市況を押し下げているため、国内の価格も下落に転じている。
- ⑤ 物件、案件が乏しい月だった。自動車、建機の減産は大きい。
- ⑥ 上期最終月となったが、荷動き、売上ともに上伸力が乏しく、市況も冴えない。10月1日、新日鉄住金、日新・日本金属工業の合併が業界全体の継続性に資することを強く望む。中国、韓国問題、原発、消費税に対して政治もリセット(総選挙)しなければならない。震災復興のスピード感不足、社会保障、エネルギーや食料品等のコスト上昇、世界的な景気後退リスクの中で、一企業として出来ることは少なく、需要の創出こそが必要なのだが、リストラだけでは対処療法に過ぎない。ピンチをチャンスに変えるには、仕方なく、仕組みを変えることだ。ゆでガエル状態にイライラがつる。

中板

- ① 荷動きは8月比微減で推移。価格は横這いをキープしているが、相変わらず安値情報あり。需要の底上げ要因が見当たらず、当面は現状維持が精一杯。

厚板

- ① 今月は、土木分野の物件が下支えになったが、全体としては前月同様、橋梁、鉄骨とも端境期であり、低い山積み状況であった。しばらく基調は変わらず、好転の兆しは見えない。鉄骨では、計画されている大型物件があるが、加工時期は4Q以降の見込みである。価格面においては、建材関係の低調から切板市況は相変わらず上昇力は鈍く、収益面でも厳しい状況が続いている。

— 舟安开多金岡

- ① 前月と営業日数は同じなれど、販売数量、売上高が多少なりとも増加傾向にあるのは、年末までの営業展開に好感を抱かせる。被災地での需要でなく、関東での需要が心強い。
- ② 瞬間的に忙しくなったりするが、売上に直結しない。厳しくなっていると言っているが、職人不足で、現場の数や大きさは増加、増大しているのではないか。

正形鋼

- ① 荷動きは、8月、9月と良くなく、10月に入っても変化していない。9月の値上げ玉が入荷して来るので、荷動きは良くないが採算を考えて、販売価格を上げていきたい。
- ② メーカーネット上げに対しての市況の上げは感じられない。むしろ下げ気配である。需要不足とメーカーの売り腰の弱さから、流通は強気になれない。

異形棒鋼

- ① 店売りは低位安定。スクラップの下げなどで先行きが見えない。しかし、加工は、秋になりそれなりに動いている。
- ② スクラップ安の傾向であるが、製品現物市況は横這い。荷動きは当用買いが続いている。小口販売の積み重ね、足し算の商売で乗り切るしかない。

平鋼

- ① 日数が多い割には荷動きが悪く、物が動かない。建産機の落ち込みの影響もあるのかも知れない。価格は、下落が止まったが勢いは非常に弱く、一部安値も散見される。

鋼管

- ① 特殊材料出荷のため、売上高、販売単価、粗利とも増加した。
- ② メーカー値上げ発表があったが、市場に動きなし。市況下落防止効果は若干あったか。

構造用鋼

- ① 鋼材の主たる需要先である自動車、建機の減産により、鉄鋼メーカーも流通も受注量が減り、厳しい環境になりつつある。店売りなどの一般市況も、依然として弱含みである。
- ② 先行きが不透明で、大波乱がありそうで不安だ。
- ③ 需要動向は、自動車関連についてはエコカー補助金が終了し、また中国問題、ノックダウン部品の現調化等もあり、今後減少傾向になると思われる。建設機械関連は、生産計画の下方修正が続き、大型鉱山機械も低下しており、今後更に不透明となっている。店売りについては、比率の高い建機、産機が減速していることもあり、減少傾向となっている。市況については、荷動きが低調なこともあり、下落傾向が続いている。

その他

<曲げ加工>

- ① 先月同様、景気低迷により横這い状態。相変わらず細かい物件で、短納期。重量および金額が上がらず、加工減少。トラック等の動きも鈍いように思われる。もう少し公共投資等による大きなプロジェクト物件が欲しいものである。

<鉄スクラップ>

- ① 9月は初旬より4日前後間隔で7回の下げ、12%以上下落する。発生は低調であるが、売り先も狭いので、需要と供給が見合っている。現在の価格は2009年初夏、リーマンショック後に切り上がり始めてきた時と同じ位である。

<金属表面処理加工>

- ① 9月は紐付き材が計画通りとなるが、物件物の納期が次月に繰り越しとなるも、スポットの扱い量が多く、予定通りの処理量となった。10月は前月同様の処理を予定しており、付加価値の高い引き合いが多いことから、受注につながれば高い操業となりそうである。